平成26年(2014年)3月期 決 算 説 明 会

2014年5月23日

JASDAQ: 3423



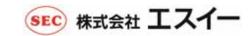
SEC 株式会社 エスイー

目次

- I. 平成26年3月期業績 および 平成27年3月期業績予想
- ||. 平成26年3月期 | エスイーグループ各社 事業報告
- |||. エスイーグループの今後の戦略

I. 平成26年3月期業績 および 平成27年3月期業績予想

損益計算書(連結)



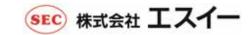
(単位:百万円)

	平成25年3月期 実績	平成26年3月期 実績	前期比	
売上高	17,321	18,684	1,363	7.9%
営業利益	1,066	1,276	210	19.8%
経常利益	1,056	1,293	237	22.5%
当期純利益	612	792	179	29.3%

前期に引き続き、<u>増収増益</u> エスイーグループ過去最高の売上高を達成

- ・公共工事の景気浮揚策が追い風となり、受注・工事量が活況化
- ·工事現場での職人不足による影響から、施工性の高い製品の<u>売上高増加</u>
- ・生産効率の向上、製造コストの抑制/低減

セグメント別業績

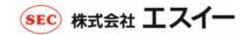


(単位:百万円)

	平成25年	三3月期	平成26	年3月期		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前期	明比
	営業利益	利益率	営業利益	利益率		
│ │ 建設用資機材の製造·販売	10,160	58.7%	11,122	59.5%	961	9.5%
连政用負機的 の 表色	816	8.0%	992	8.9%	176	21.6%
建筑田姿材の制造, 販売	4,978	28.7%	5,351	28.6%	373	7.5%
建築用資材の製造・販売	330	6.6%	322	6.0%	7	2.2%
Z⇒≐ルコンノ++ II カンノし	925	5.3%	591	3.2%	333	36.0%
建設コンサルタント	30	3.3%	25	4.2%	5	18.9%
************************************	1,252	7.2%	1,619	8.7%	366	29.3%
補修·補強工事	3	0.3%	137	8.5%	140	-
7.0/H	4	0.0%	-	-	-	-
その他	0.5	12.9%	-	-	-	-
A ±1	17,321	100.0%	18,684	100%	1,363	7.9%
<u>合</u> 計	1,066	6.2%	1,276	6.8%	210	19.8%

[■]各事業の売上高はセグメント間の内部取引を除き、また営業利益の合計では内部取引および全社費用、のれんの償却額を控除した上、 端数調整した数字を記載しております。

セグメント別業績(総括)



建設用資機材の製造・販売事業が順調に推移

【建設用資機材の製造・販売】

売上高9.5%増、営業利益21.6%増と大幅な<u>増収増益</u> 主力製品である、アンカーおよび関連製品の売上が拡大

【建築用資材の製造・販売】

売上高7.5%増、原材料のコストアップにより、営業利益は2.2%減少引き続き、生産コストの低減を図る

【建設コンサルタント事業】

売上高36.0%減、営業利益18.9%減 コンサルタント<u>事業範囲拡大、新規パートナー開拓</u>から、 新規受注拡大を図る

【補修·補強工事業】

売上高29.3%増、営業利益の黒字化と大幅な<u>増収増益</u> 人材確保と事業エリア拡大から、さらなる受注の拡大を図る

貸借対照表(連結)



(単位:百万円)

	平成25年3月期末	平成26年3月期末	前期	末比較
流動資産	14,227	14,968	740	5.2%
固定資産	5,522	5,581	59	1.1%
資産 合計	19,750	20,550	799	4.1%
流動負債	8,226	8,695	469	5.7%
固定負債	4,503	4,110	392	8.7%
負債 合計	12,729	12,806	77	0.6%
純資産 合計	7,021	7,744	722	10.3%
負債·純資産 合計	19,750	20,550	799	4.1%

自己資本比率

35.5%

37.6%

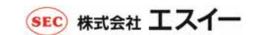
一株当たり純資産

469円10銭

517円38銭

当期純利益の計上による利益剰余金の増加等により、 純資産が増加、自己資本比率が上昇

CF計算書(連結)



(単位:百万円)

	平成25年3月期	平成26年3月期	前	期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	965	1,367	401	41.6%
投資活動によるキャッシュ・フロー	188	328	139	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	41	705	664	1
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	1	0	-
現金及び現金同等物 増減額(は減少)	735	334	401	-
現金及び現金同等物 期首残高	3,632	4,368	735	20.3%
現金及び現金同等物 期末残高	4,368	4,703	334	7.7%

営業CF: 税引等調整前当期純利益等の増加

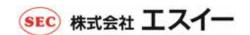
投資CF:定期預金預入、

有形固定資産の取得等による減少

財務CF:長期借入金の返済、

配当金の支払等による減少

平成27年3月期 業績予想(連結)



(単位:百万円)

	平成26年3月期 実績	平成27年3月期 予測	前期比	
売上高	18,684	20,500	1,815	9.7%
営業利益	1,276	1,489	212	16.6%
経常利益	1,293	1,500	206	15.9%
当期純利益	792	834	41	5.2%

平成27年3月期 期末配当金 1株当たり 22円

(予定)

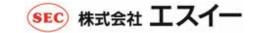
<一株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移(連結)>

	平成24.3期	平成25.3期	平成26.3期	平成27.3期 (予測)
一株当たり 当期純利益(円)	33.33	64.55 ₁ (40.99)	53.00	55.77
一株当たり配当金(円)	20(10)	15	22	22
配当性向(%)	60.0	23.2	41.5	39.4

¹ 括弧内の数値は、平成25年1月に実施した株主割当増資による新株式を含む期末発行済株式数から期末自己株式を差し引いた株数で換算した参考数値です。

² 括弧内の数値は、平成25年1月に1:1で実施した株主割当増資の割当株式数を加算した株式数を基準として割り戻した参考金額になります。

売上高·経常利益推移





	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期	平成27年3月期 (予測)
売上高(百万円)	15,405	17,321	18,684	20,500
経常利益(百万円)	393	1,056	1,293	1,500
経常利益率(%)	2.6	6.1	6.9	7.3

||. 平成26年3月期 | エスイーグループ各社 事業報告

エスイーグループ各社 売上構成





エスイーリペア(株)

(補修·補強工事) 16億19百万円 8.5%

(株)エスイー

(建設用資機材の 製造・販売) 112億77百万円 59.4%

(株)アンジェロセック (建設コンサルタント) 7億35百万円 3.9%



グループ各社 合計 186億84百万円

> 平成26年3月期 実績





エスイーA&K(株)

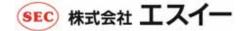
(建築用資材の 製造・販売) 53億55百万円 28.2%

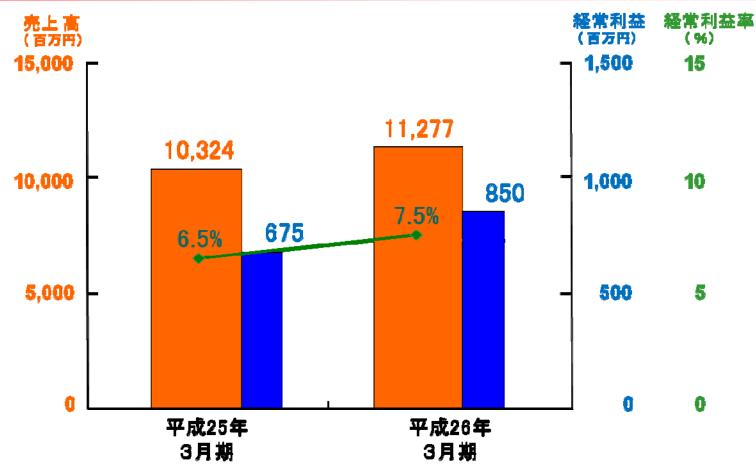


合計金額はグループ間取引を控除した数値、各社売上高はグループ間取引を含む数値になります。

株式会社エスイー

(建設用資機材の製造・販売事業)

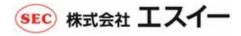




	平成25年3月期	平成26年3月期	前期	朔比
売上高(百万円)	10,324	11,277	953	9.2%
経常利益(百万円)	675	850	175	25.9%
経常利益率(%)	6.5	7.5	1.	.0

株式会社エスイー

(建設用資機材の製造・販売事業)



政府の経済対策に伴う 公共工事の景気浮揚策の追い風から、 前期に引き続き、<u>増収増益</u>を達成

- ·法面、港湾などの工事に使用される、グラウンドアンカーの販売が 順調に推移
- ·現場施工の省力化が図れる、KIT受圧板の販売も順調に推移

環境防災分野

アンカー KIT受圧板



アンカーによる港湾の岸壁補強

落橋防止装置 控索 等



アンカーと併用し法面に使用するKIT受圧板

橋梁構造分野

等

斜材 外ケーブル



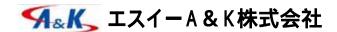
PC用ケーブル(FUT)および 落橋防止装置を採用

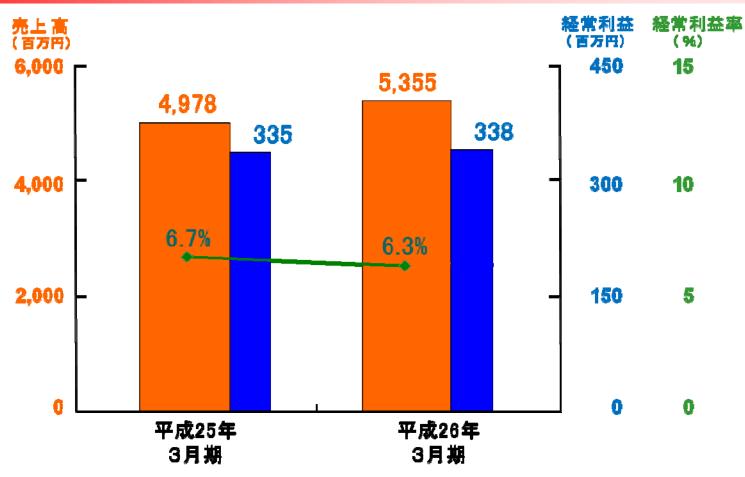
PC用ケーブル



首都高の補修・補強 (外ケーブル、SEリミッター、 落橋防止装置)

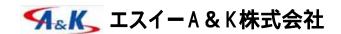
エスイーA&K株式会社 (建築用資材の製造・販売事業)





	平成25年3月期	平成26年3月期	前期	明比
売上高(百万円)	4,978	5,355	377	7.6%
経常利益(百万円)	335	338	2	0.9%
経常利益率(%)	6.7	6.3	Δ	0.4

エスイーA&K株式会社 (建築用資材の製造・販売事業)



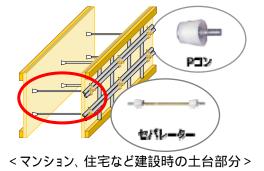
建築工事量の増加傾向を背景に、順調に推移

- ・首都圏市場での資材販売が順調に推移
- ・原材料価格上昇の中、コストの低減を努力
- ·関連指標の回復傾向と復旧·復興需要から、<u>民間需要の取り込み</u>を図る (関連指標:首都圏新設マンション着工数、非住居着工棟数(民間))

仮設建材事業

コンクリートを流し込むための型枠(建物の土台部分)を 仮設する際に使用する製品の製造・販売

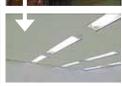


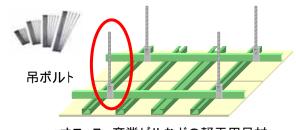


内装建材事業

コンクリートのビル等に使用される、軽量の天井下地を 吊り下げるための吊りボルト・セットボルトやその他建材 の製造・販売

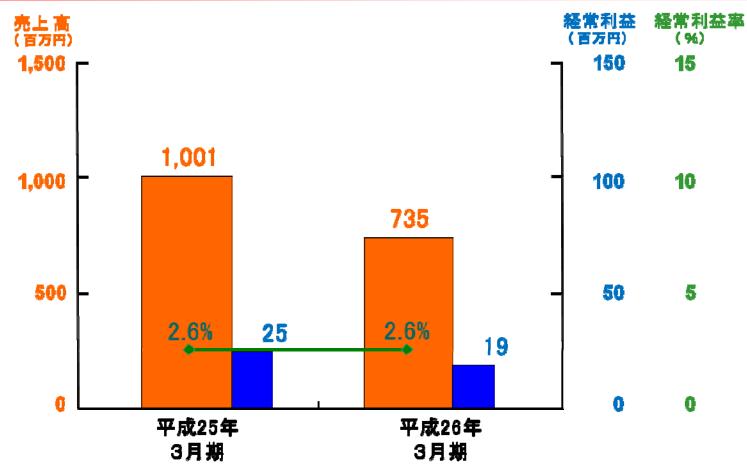






株式会社アンジェロセック (建設コンサルタント事業)





	平成25年3月期	平成26年3月期	前期	期比
売上高(百万円)	1,001	735	△266	
経常利益(百万円)	25	19	△6	
経常利益率(%)	2.6	2.6	0.	.1

株式会社アンジェロセック (建設コンサルタント事業)



海外展開による、受注物件の確保に注力

・国内外における、受注案件の消化活動を展開 「ガーナ国国道8号線改修計画の施工監理」 「パプアニューギニア道路整備能力強化プロジェクト」 「平成24年有明海沿岸道路(南部地区)道路設計外業務」

ガーナ国国道8号線改修計画の施工監理

国内主要港と各都市や近隣内陸国を結ぶ、 幹線道路60km間の改修計画の調査・設計・施工監理



工事前(道路が非常に劣化)



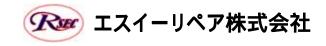
パプアニューギニア道路整備能力強化プロジェクト

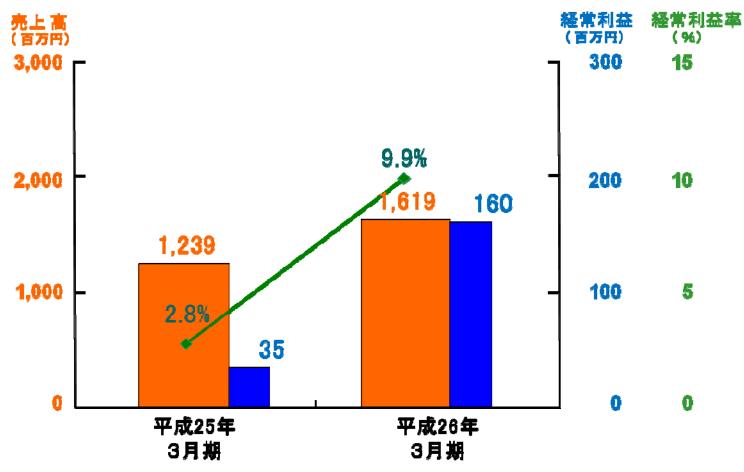
パプアニューギニアの4州において、道路の維持管理 能力強化及び機材の運転・整備の実習を実施



エスイーリペア株式会社

(補修・補強工事業)

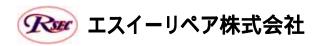




	平成25年3月期	平成26年3月期	前期	朔比
売上高(百万円)	1,239	1,619	379	30.6%
経常利益(百万円)	35	160	125	355.3%
経常利益率(%)	2.8	9.9	7.	.1

エスイーリペア株式会社

(補修・補強工事業)

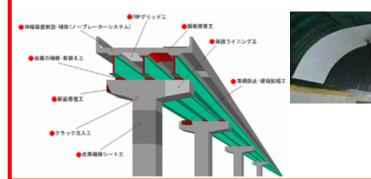


「国土強靭化」政策による公共事業費増加および 市場環境の好転により、増収増益を達成

- ・社会インフラ老朽化の進展を背景に、積極的な事業展開を実施
- ・九州エリアにおける老朽化した橋梁構造物・トンネル等の 補修・補強工事が業績に寄与
- ・資材費、人件費上昇傾向の中、コストの低減を努力

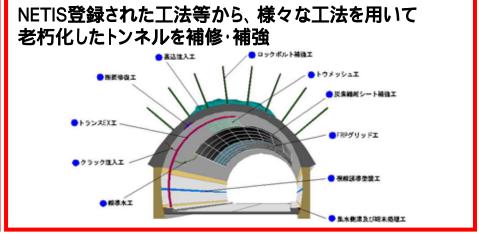
橋梁補修·補強

補修・補強工事における長年の実績とノウハウから、 様々な工法で橋梁を補修・補強





トンネル補修・補強



III. エスイーグループの今後の戦略

市場環境



【建設業界をとりま〈市場環境】

短期

(継続

・自民党政権による金融・財政政策の緩和「アベノミクス」「国土強靭化法」など

·平成26年度 公共事業予算の重点化: 約6.9兆円へと増加

(公共事業関係費 + 復興関係公共事業等歳出)

<以下、継続する課題>

- ・1970年代に整備された橋梁、トンネル、道路等が一斉に更新時期到来:老朽化対策
- ・地震や台風などの大型自然災害の発生:防災対策の必要性
- ・熟練工の高齢化と若手入職者の減少(求人は急増):人材不足、労務費高騰

中·長期

・2020年(平成32年) 東京オリンピック開催

·国債発行残高の増加:国や地方自治体の財政圧迫 平成26年度末公債残高 約769兆円 見込み 平成35年度末公債残高 約1,014兆円 見込み (財務省発表より)

・少子高齢化と労働人口の減少:国内市場の縮小傾向

エスイーグループの戦略



エスイーグループでは、 既存事業の安定 と 3つの<u>成長戦略</u> を推進

緊急性の高い課題への対応:既存事業の安定

- ・社会インフラの老朽化対策、効率的な維持管理
- ・地震や異常気象などに対する防災・減災対策

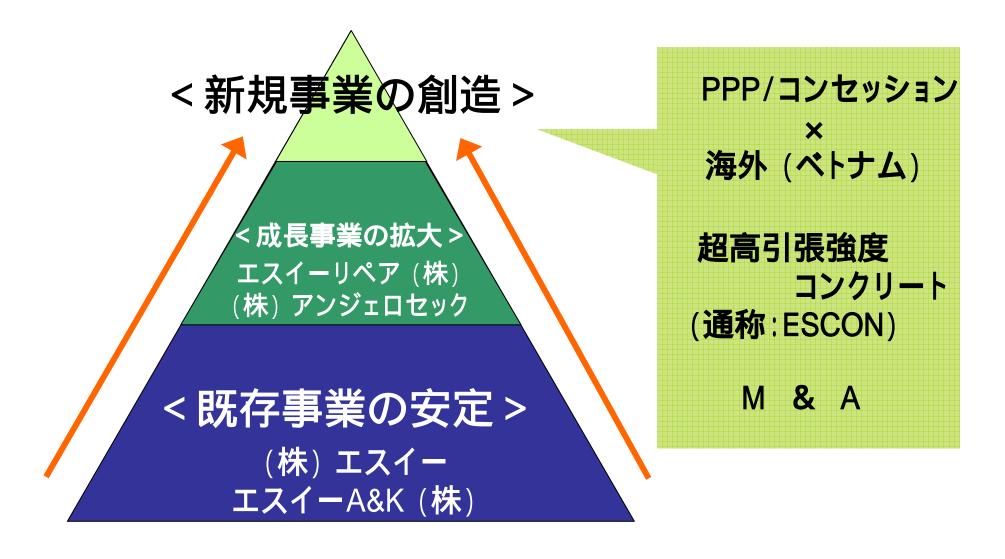
中長期的な課題への対応:<u>3つの成長戦略</u>

- ·縮小する国内建設市場:行政の財政圧迫による、民間資金の活用 海外市場への展開 × PPP(公民連携)の推進
- ・安全な社会インフラの建設・維持管理構造物の長寿命化への挑戦
- ・経済環境の著しい変化 スピード感を持ったM&Aによる事業拡大

エスイーグループでは、上記事業の拡大と、 さらなる発展のための成長戦略に挑戦

エスイーグループの戦略





既存事業の安定



エスイー

SEEE工法の 優位性を訴求

(ナット定着、防食性、圧縮型)

既存製品の 用途拡大

新製品·新技術 の研究開発

エスイーA&K M&K



(首都圏) 民間住宅·非住 宅投資の取込

(東北エリア) 復興再生事業 の取込

製造コストの 抑制および 低減努力

成長事業の拡大



エスイーリペア(アング



工事体制の 強化

安定顧客の 新規開拓

新工法 新材料の取込

アンジェロセック(INGÉROSEC



多様化する 市場ニーズ への適応

事業分野の拡大

仏 大手コンサルと 鉄道分野への事業参画 新規物件の 開拓

新規事業の創造



PPP/コンセッションへの積極的な取組



ESCON(超高引張強度コンケリート)開発と実用化

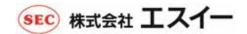


戦略的M&Aの推進



新規事業の創造を推進

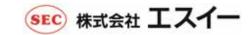
PPPコンセッション



成長戦略の核の1つであるPPP(公民連携)戦略

- 1. (株)エスイーは社会インフラの新設や老朽化対策へのPPP コンセッションの活用に、我が国では最初に積極的に取り組んできた。
- ベトナム クアンニン省に「Bach Dang(バックダン)橋」建設 PPP(BOT)を提案し、昨年10月に「投資家指名」を受けた。
- 3. 国内では、国土強靭化を社会インフラ老朽化対策へのPPP コンセッション提案の他、数件のPPPプロジェクトに取り組んでいる。

ベトナムでのPPP事業提案



ベトナム PPP(BOT方式)による事業提案

ベトナム子会社であるVJECを中心に、エスイーおよびアンジェロセックで連携して事業提案を実施。

『バックダン橋』整備(PPPプロジェクトの提案) およびダンニャマック地区開発

・ハロンとハイフォンを結ぶ高速道路25kmのうち、橋梁部分5kmの建設工事および ダンニャマック地区の土地開発案件。

・2013年 7月 【ダンニャマック地区開発】について、経済産業省より「平成25年度新 興国での新中間層獲得による日本再生事業(アクションプラン実現に 向けた個別のインフラ整備等のための事業実施可能性調査)」に採択。

LE KÝ KÉ BURNIGOURGINUTE

< ベトナム・クアンニン省と の実施協力のための覚書 調印式の様子>

2014年3月 全作業完了

・2013年10月 【バックダン橋】について、JICAより「協力準備調査(PPPインフラ事業)」に採択。

<u>現在、F/S調査実施中</u>

<上記以外に進行中のペトナム案件>

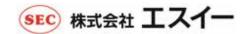
「ハノイ - ハイフォン間高速道路 施工管理業務」

- 全長110kmの施工管理(建設は中国、韓国企業)

「Bai Chay (バイチャイ)橋 法面対策調査設計業務」

- JICAより受注
- IDI(国際建設技術協会)との連携

地理的な位置関係



ベトナムにおけるプロジェクト現場





総事業費 360億円

工事費 240億円

工期 2015年~2017年

ベトナム政府 クアンニン省

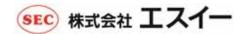
ベトナム北部大動脈の形成、産業、経済開発の推進と日本からの工場進出 (世界遺産のハロン湾観光ビジネスの推進)

バックダン橋およびアプローチ道路





バックダン橋・プロジェクトの現状



現在の状況:

- ・現在、ベトナム・クアンニン省(以下「QN省」)と、事業化に向けて交渉を進めております。
- ・今後、ベトナム計画投資省に「投資許可申請書」を提出する予定です。

QN省との交渉:

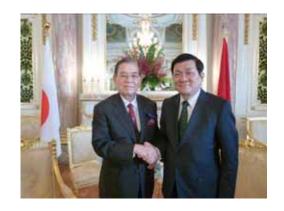
- ·QN省から「セキュリティーパッケージ」(収入保証、返済保証)を保証済み。
- ·2013年10月 QN省より正式「投資家指名」を受け、「仮契約」調印済み。

収入保証:実通行料収入が、予測収入を下回った場合、差額分50%をQN省が保証

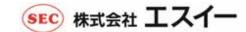
返済保証:QN省が50億円の「無利子劣後融資」を保証(年間10億円 5年間)

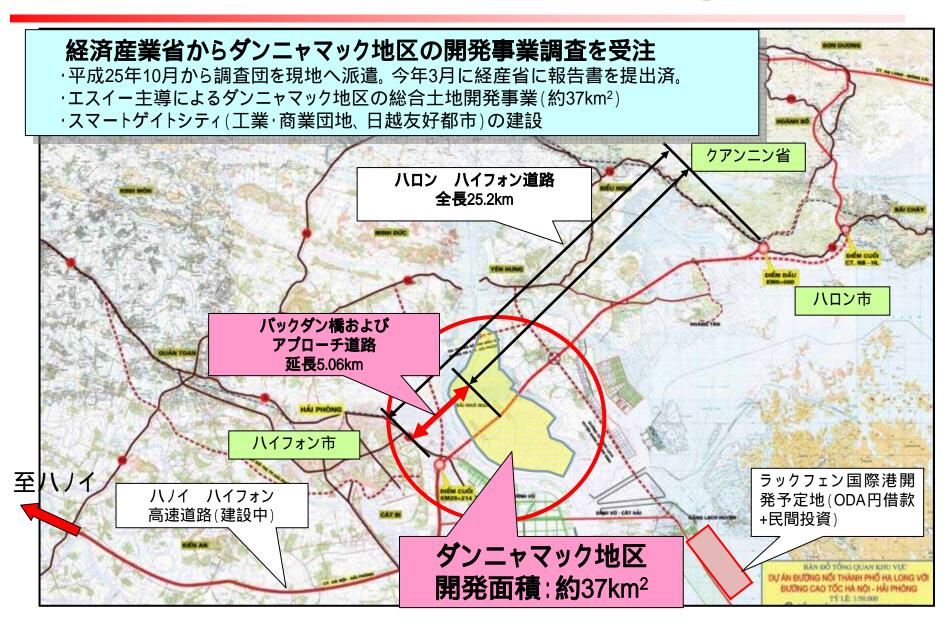
その他:

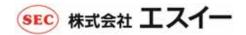
・2014年3月18日 ベトナム サン国家主席と森元社長が面談。 バックダン橋について意見交換を実施。



ダンニャマック地区開発の概要







「ESCON」とは

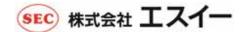
- ・超高引張強度コンクリートExtra-High Tensile Strength Concreteの略称
- ・圧縮強度、曲げ引張強度が一般的なコンクリートより高い
- ·鋼材を使用しないため腐食せず、また高い靭性からひび割れにも強く、 コンクリート系構造物の超高引張強度コンクリートによる長寿命化が図れる

開発の背景

- ・建設現場における熟練工の激減:現場作業の負担低減と製品の品質確保が必要 コンクリート構造物のプレキャスト化、省力化、軽量化
- ・南海トラフや首都直下型などの大規模地震に対する構造物の耐震化対策が急務 財政状況が逼迫による耐震化対策費の低減に対応

高強度コンクリートの使用により構造部材の軽量化が可能

腐食劣化しないコンクリートの使用により耐久性が向上し、構造物の長寿命化および維持管理費・更新費の大幅な削減が可能

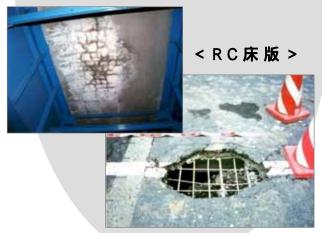


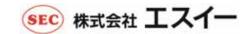
コンクリート構造物の劣化原因



道路橋の経年疲労







開発概要

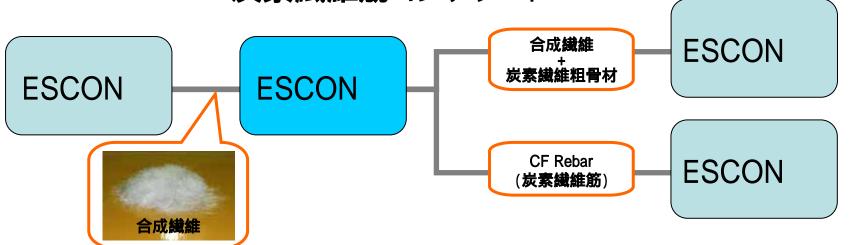
ESCON : 合成繊維を混入しないモルタル

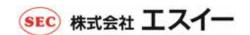
ESCON : 合成繊維を混入したモルタル

ESCON : 合成繊維と炭素繊維粗骨材使用のコンクリート

ESCON : ESCON にCF Rebar(炭素繊維筋)を配置した

炭素繊維筋コンクリート





ESCON の特徴

圧縮強度が極めて高い: 150N/mm² 以上 (普通コンクリートの約4~5倍)

曲げ引張強度が極めて高い: 20N/mm² 以上 (普通コンクリートの約7~10倍)

凍害抵抗性が極めて高い 寒冷地の構造物への適用に有効

塩分浸透性が極めて低く、ほとんどゼロである

沿岸地域、凍結防止材散布地域の構造物への適用に有効

透水性が極めて低く、ほとんどゼロである 水理構造物に有効

極めて中性化しにくく、透気性がほとんどゼロである

二酸化炭素濃度の高い環境にある構造物への適用に有効

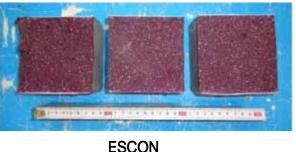
流動性が高く、自己充填性を有する **薄い部材や複雑な形状への適用に有効**

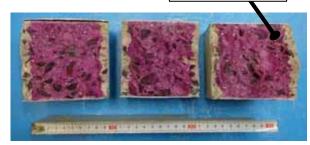
耐摩耗性・耐衝撃性が高い 滑走路や水理構造物への適用に有効

中性化領域

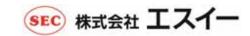
促進中性化試験結果(13週)

緻密化された硬化体が形成されているため、透気係数も極めて小さく、通常の環境下では中性化の心配がありません。促進試験(13週)の結果においても中性化は認められませんでした。





普通コンクリート



ESCON の試験計画

複数の大学機関と連携し、製品の試験体について共同で性能確認試験等を実施。 超高強度鉄筋を用いて、ESCON製品の応用範囲を拡大。 (将来的には鉄筋を炭素繊維筋に置き換える計画)

< 主な試験内容 >

- ·超高強度鉄筋を用いた**薄型床版**の開発
- ·超高強度鉄筋を用いた**新設橋脚**の開発
- ·**既設橋脚の補修工法**開発(現場打ち)

床版:輪荷重走行試験



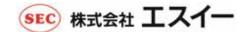
床版:定点疲労試験



新設橋脚:供試体

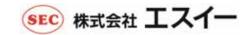


今後も大学等と共同で試験を実施し、開発を推進









ESCON の開発状況

STEP コンクリートの超高強度化(特許出願済み)

・基礎となるコンクリートの強度および耐久性等の基本性能を確認

製造方法の確立

テストプラントの開発

STEP

炭素繊維とセメントペーストとの親和性の改善

・炭素繊維との親和性について、基礎実験が終了 現在、製品化に向けて開発中

超高引張強度コンクリートの活用:用途開発・検討

STEP

プレキャスト床版への活用

:厚さが薄〈軽量(0.60/普通コンクリート)、腐食劣化無

【プレキャスト床版とは・・・】

あらかじめ工場等で製造されたPCコンクリートの床版のことで、道路を通行する車や人の荷重を直接支える部分。 道路が変形などを起こさないように主げたなどに 荷重を伝達する役割を果たします。

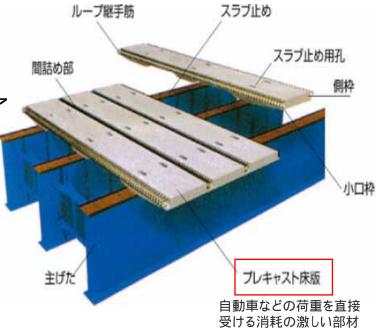


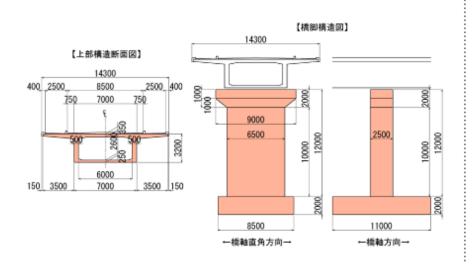
図: 社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会 ウェブサイトより

"鋼材を使わない"道路橋用プレキャスト床版の製品化を目指す

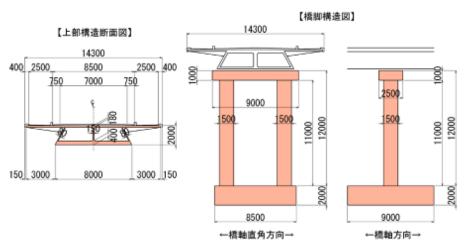


将来構想:ESCONを用いた道路橋の試設計の結果

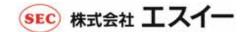
【従来の橋梁:PC箱桁】

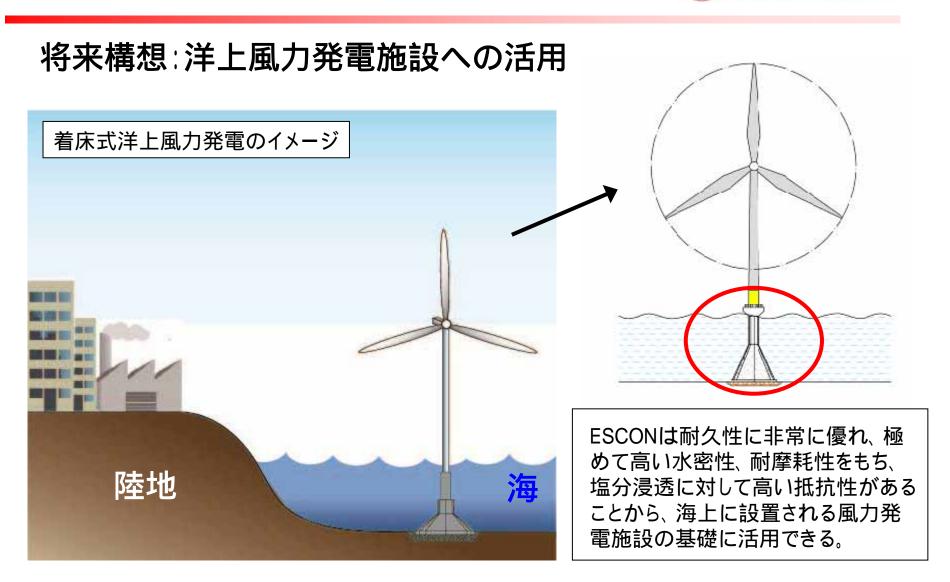


【ESCON仕様橋梁】

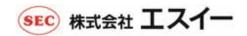


上・下部工の総重量が約40%低減でき、上・下部工の工事費は約20%低減できる。





戦略的M&Aの推進



エスイーグループにおけるM&A実績

平成21年4月 朝日興業株式会社(現·エスイーA&K株式会社)の株式取得

(子会社化)

平成22年1月 株式会社キョウエイ(現・エスイーA&K株式会社)の株式取得

(子会社化)

平成24年5月 株式会社仲田建設(現·エスイーリペア株式会社)の株式取得

(子会社化)

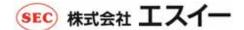
平成26年4月 鉄建工業株式会社の株式取得

(子会社化)

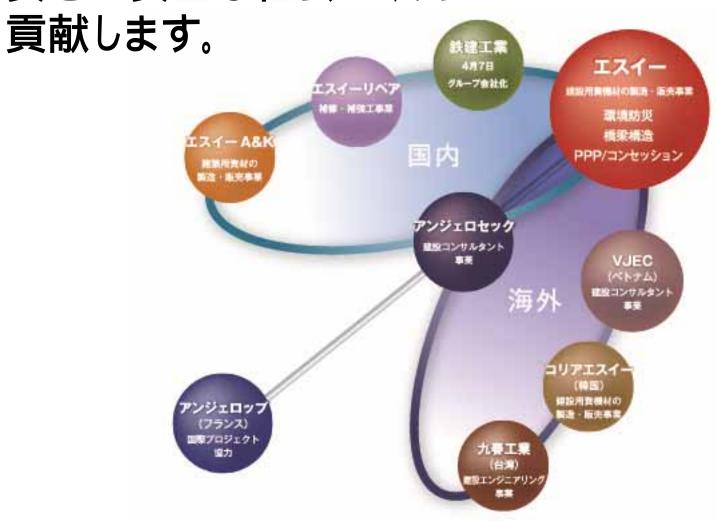
・建設と交通インフラ分野を中心に、他領域の事業へも市場拡大 (仏大手コンサル会社との業務提携交渉、東南アジア市場開発)

- ・より一層の建設分野での他分野を含めた経営基盤の強化
- ・技術経営とイノベーション:技術・人材・M&A スピード重視の成長戦略

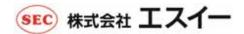
エスイーグループ関連会社構成

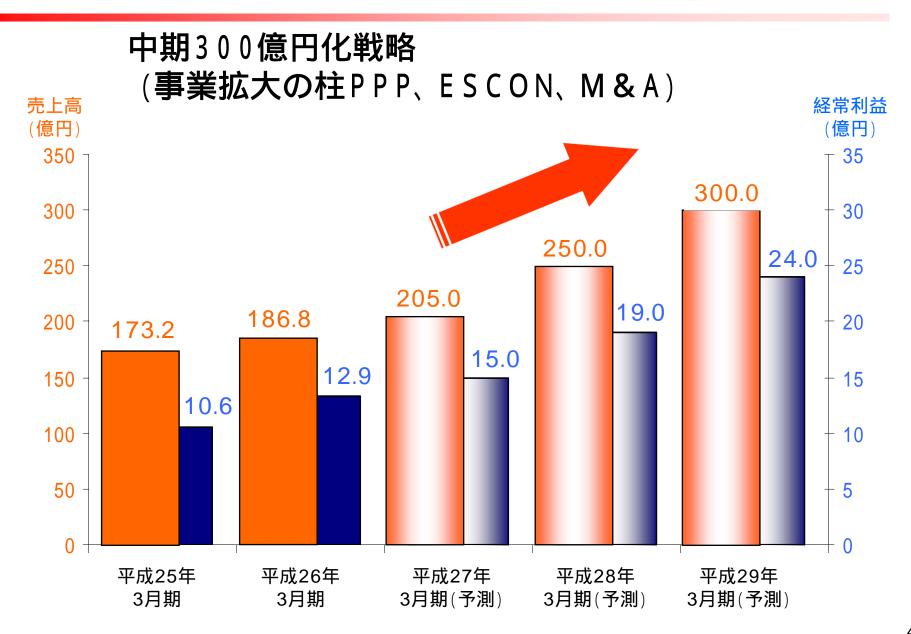


安心で安全な社会づくりに



エスイーグループ売上/利益目標





将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関係する見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがいまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

Globality Engineering Maker

SEC 株式会社 エスイー